

## 第2回大河原地域における高校のあり方検討会議 会議録

日 時 平成28年5月27日（金） 午前10時から午前11時30分まで  
場 所 宮城県大河原合同庁舎 2階 201会議室  
出席者 別紙出席者名簿のとおり

### 1 開会

#### 【司会】

本日はご多忙の中、「第2回大河原地域における高校のあり方検討会議」にご出席いただき大変ありがとうございます。

会議に先立ちまして、宮城県教育委員会教育監兼教育次長の鈴木洋（すずきひろし）より御挨拶を申し上げます。

### 2 あいさつ（鈴木教育監兼教育次長）

本日は、お忙しいところ、しかも足元の悪い中を「第2回大河原地域における高校のあり方検討会議」に御出席いただきまして、厚くお礼申し上げます。

本日お集まりの皆様には、日頃から本県教育行政に対し御理解と御協力を賜りますとともに、本地区の教育の振興・発展につきまして御尽力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、この会議は大河原町内の二つの高校を改編し、新たな職業教育拠点校を設置するにあたり、地域のニーズを踏まえた魅力ある学校づくりを進めるため、地域や学校関係者等の幅広い立場からご意見を伺うために開催しているものでございます。

3月に開催いたしました前回の会議におきましては、本地区における高校教育の現状などについてご説明させていただき、皆様方から教育への率直な思いや、新しい学校に期待することなどについて、大変貴重なご意見をいただいたところでございます。

2回目となる今回は、今後の農業・商業教育の方向性や新しい学科についてご議論いただきたいと考えております。限られた時間ではございますが、魅力ある新しい学校づくりに向けて忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ開会の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくようお願い申し上げます。

#### 【司会】

続きまして、人事異動により変更がありました、新しい構成員の皆様をご紹介します。

お配りしております出席者名簿をご覧ください。

はじめに、金ヶ瀬中学校校長 品川信一（しながわしんいち）様でございます。

続いて、大河原教育事務所所長 鈴木一史（すずきかずし）様でございます。

なお、「大河原地区中学校長会」の会長ですが、今年度は、大河原中学校の菊池均（きくちひとし）校長が務められますので、今後は兼務という形でご出席いただくこととなります。そして、本日は、大河原中学校からは菊池校長先生の代理といたしまして、佐藤徳雄（さとうとくお）教頭先生にご出席をいただいております。

また、大河原商業高等学校安藤同窓会長の代理として、本日は大沼俊臣（おおぬまとしみ）幹事長にご出席をいただいております。

どうぞよろしく願いいたします。

### 【 司 会 】

それでは、会議の内容に入りたいと思います。

今後の進行につきましては、本会議の座長でございます鈴木教育監兼教育次長にお願いいたします。

## 3 内容

### 【 座 長 】（鈴木教育監兼教育次長）

それでは、しばらくの間、座長を務めさせていただきます。進行へのご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

初めに、「第1回会議における主な意見」と「農業・商業教育の今後の方向性」について、資料1と資料2に基づき事務局からご説明申し上げます。

それでは、よろしく願います。

### 【 事務局 】（西城教育企画室教育改革班長）

事務局の西城と申します。よろしく願いいたします。

まず資料1をお手元にご準備ください。「第1回大河原地域における高校のあり方検討会議における主な意見について」ということで、皆様から頂戴いたしましたご意見を取りまとめさせていただきます。項目として「新しい学校に期待すること」、「農業・商業教育について」、「新しい学科について」、裏面「要望」等それぞれの項目について意見内容を取りまとめております。1ページ目をご覧ください。

まず「新しい学校に期待すること」といたしまして、これからの時代のリーダーシップをとっていけるような学校にしてほしい、それから、全国に先駆けるような学科や指導内容を期待したい、ITを活用した教育活動や6次産業化に向けた取組を期待したいというご意見をいただきました。

次に、「農業・商業教育について」ですが、アグリテクノやバイオなど、大学や地域のJ

Aと連携し、農業の新しいスキルを学べる学科があるといい。それから、ITに関する勉強をし、ネットビジネスの専門家を育成し、販売力を身に付けてほしい。就職において、中小企業による近隣諸外国への進出に伴い、語学力が必要である。生産、加工、販売を生徒自らが考え、手がけることにより、地域の方も関心を持ち、地域の学校ができるのだと思うなどのご意見をいただいております。

続いて、「新しい学科について」の項目になりますが、地元企業と連携した幅広い学びのできる「ブランド学科」を設置し、6次産業化やブランド化などの知識を持つ人材がほしい。それから、観光にも関連する「ブランド学科」で仙南地域のブランド力を上げるような様々な勉強をしてほしい。資格取得や進学、就職ができるような、総合的な学びができる学科を設置してほしい。少子高齢化の時代において福祉学科は必要である。商業と農業に共有する部分である“販売力”を上げるためには、「デザイン」が必要である等々の意見をいただいております。

2ページ目をご覧ください。「要望」の項目になりますが、大学進学への道を切り開けるよう、幅広いコース設定をお願いしたい。それから、地元中学校と高等学校との連携や情報交換、交流を今後ますます深めてほしい。学校間交流や住民との交流など、地域との交流を活発にしてほしい。全国でも有名な部活動は残してほしい。地域の企業との連携を深め、デュアルシステムを中心とした教育をしてほしい。なお、デュアルシステムにつきましては、そのページ一番下の※印になりますが、若年者向けの実践的な教育・職業能力開発の仕組みとして、企業での実習と学校での講義等の教育を組合わせて実施することにより若者を一人前の職業人に育てる仕組みのことをいう定義になっており、県内では、一迫商業高校が導入し、「企業実習」「販売実習」「起業家研究」の3つの長期企業実習を行っている状況にあります。これらを中心とした教育をしてほしいであるとか、技術開発や商品企画、マーケティングなど様々な知識を身に付ける必要があるというご要望をいただいたところです。

「その他」につきましては、記載のとおりとなります。資料1の説明については、以上のとおりとなりますが、ここで前回の会議でお話していたところではありますが、当検討会議の位置付けを確認させていただきたいと思っております。こちらの検討会議につきましては、全日制の学校に関する議論をお願いするものとなっております、この4月から岩沼高等学園川崎キャンパスが併設されました柴田農林高校川崎校につきましては、新しく設置される職業教育拠点校の分校として引き続き存続いたします。また、大河原商業高校定時制につきましては、県全体として定時制の今後のあり方を検討する必要があることから、この会議とは別に検討を進めることとしておりますことを付け加えさせていただきます。資料1については以上となります。

次に資料2をご覧くださいと思います。資料2については「農業・商業教育の今後の方向性について」というタイトルで、これからの専門教育の方向性について宮城県の産業教育審議会の答申の内容を中心に取りまとめております。また、後半の方では再編統合

の先進事例を紹介しております。

まず1ページ目をご覧ください。これからの専門教育の方向性ということで、平成24年3月の宮城県産業教育審議会の答申になりますが、職業教育の充実としての記載内容を確認していきたいと思えます。「将来のスペシャリストの育成」を目指す観点から、各専門分野の「基礎・基本の確実な定着」を図る必要がある。それから、これまで以上に地域の産業現場での長期の実習や課題解決等に取り組むなど、「地域の教育力を生かした取組の推進」が重要となる。国際化の中で、国際的な感覚や視野の醸成に努めるとともに、外国語によるコミュニケーション能力の育成も図るなど、「グローバル化への対応」を進めていくことが必要となる。職業教育を充実させていくためには、上級学校に進学する生徒への対応のほか、基本的な学習内容の定着を図るための学び直しの機会を確保することも重要である等々の記載になっております。

2ページ目をご覧ください。「宮城県の農業教育の現状と今後の方向性」といたしまして、記載内容としては、高等学校学習指導要領における農業科分野として、①から⑤まで記載されております。それから、同じく宮城県産業教育審議会の答申ですが、このなかでⅢの「今後の農業教育の方向性」をご覧くださいたいと思えます。「魅力ある農業の再興」に向けて、新たな視点に立って実践する農業人を育成していくことが求められるというところで、生産から加工、流通、消費にいたる6次産業化への取組、それからマーケティングの手法やITを活用した創造的な農業経営を実践する人材の育成、環境に配慮した安全・安心な環境保全米の栽培や有機栽培などの取組、地域の農家での現場実習を通じた就農意識の醸成、最後に大学、研究機関や農業関連団体などと連携した取組の実践といったことが挙げられております。

3ページ目をご覧ください。こちらは、「宮城県の商業教育の現状と今後の方向性」と題しまして、同じく学習指導要領における商業科の分野として、①から⑤まで記載のとおりとなっております。商業教育につきましては、宮城県高等学校商業教育研究会校長会で作成されました「将業力を育む魅力ある商業教育を目指して」の中から記載してございます。こちらにつきましても、Ⅲの今後の商業教育の方向性をご覧くださいたいと思えます。「将業力」、将来の職業人として活躍できる人材の育成ということで、基礎・基本として「基本的生活習慣」、「勤労観、職業観」、「商業の専門的知識・技能」を身に付け、3つの能力と3つの精神を育み、総合的に応用する能力と感性を育成する。それから、深化した勤労観と職業観の育成として、起業家教育、就業体験、地域産業連携の実習、地域ボランティアなどを学習する。就職・進学ができる学校づくりの推進として、実社会の即戦力となるための教育と、将来の目指す分野を極めるための上級学校へ接続する教育を推進する。それから商業高校の連携の強化、教員研修の推進といったことが挙げられております。

次のページ4ページをご覧ください。こちらからは、先進事例ということで2校ご紹介させていただきたいと思えます。まず4ページ徳島県立吉野川高等学校ですが、こちらは農業高校と商業高校の統合によりまして、平成24年度に開校した高校となっております。

特色といたしましては、農業体験から調理、店舗経営まで、総合的に学習できる食ビジネス科を新しく設置したことにあります。この食ビジネス科の位置付けですが、商業分野と農業分野をつなぐ位置付けとなっており、資料左下の※印にありますが、野菜・果樹の栽培、地域食材を使った調理・製菓など、食材調達から調理、商品開発、店舗経営までを学習する。マーケティング分野を重点的に学習する。自然食レストラン経営、食品販売などの食ビジネス従事者の育成や商業系大学などへの進学を目指すということで、平成27年6月19日にはスクールカフェや農産物販売所という取組みも開始している状況になっております。

次に5ページ目の山形県立村山産業高等学校をご覧いただきたいと思います。こちらの高校につきましては、今度6月13日に第3回高校のあり方検討会議といたしまして、学校視察を予定している高校になります。こちらの村山産業高校につきましては、平成26年度に開校したばかりの新しい高校ということになりますが、もともと農業高校と工業高校を統合し、プラス商業科という3つの学科で成り立っている高校ということになります。2番目の目指す学校像をご覧いただきたいと思います。①としまして複数の学科が連携し、グローバルな視点に立った先進的な産業教育を展開する高校、それから②産業・社会の変化を取り入れた教育活動を展開し、一人ひとりの進路希望が実現できる高校、③として専門性を活かした環境保全活動やボランティア活動に積極的に取り組む高校、④充実した特別活動を推進し、主体性に富んだ学校文化を創造する高校ということを掲げた取組みを進めております。なお、4番目に校舎等ということで、特色として農業科、工業科、商業科に関する実習等を行う「産振校舎」というものを建設いたしまして、実習に関する授業をこちらで行っているということになっております。資料2の説明については以上です。

#### 【 座 長 】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。

資料1につきましては、前回の会議でいただきましたご意見をまとめたものでございますけれども、全国に先駆けるような学科をつくってほしいというご意見のもと、いくつかのキーワードが出ております。「6次産業化」や「ネットビジネス」、あるいは「語学力」「ブランド学科」「デザイン」、そして「大学進学」「地域との交流」「デュアルシステム」「マーケティング」など、いろいろとこれからの教育に必要となるようなキーワードがたくさん出ておりますけれども、そのようなご意見をいただいております。

資料2の方では、これからの専門教育の方向性ということで、農業・商業それぞれの教育のあり方について、学習指導要領や審議会、あるいは校長会研究会の提言等がまとめられております。

ここで、4名の皆様からご意見をいただきたいと思ったところですが、この資料1・2に関わることですが、今後の農業・商業教育について、これから子どもたちに学んでほしいこと、あるいは高校時代に身に付けてほしいこと、それから、これからの社会に

求められる資質や能力など、どんなものが必要なのかということをもまずは、企業を運営されている齋藤会長様（大河原町商工会）と大沼幹事長様（大河原商業高校同窓会幹事長）から、それぞれ会社のご事情やこれからの見通しを考えながら、子どもたちにこれだけは身に付けてほしい、こういう学びをしてほしいなどのお話をいただければと思います。その後、柴田農林高校の後藤校長と大河原商業高校の佐藤校長からそれぞれお話をいただきたいと思います。

では、齋藤会長様の方から、いろいろと若い人たちをご指導されている立場から、このような資質能力や力が必要ではないかということで、大変申し訳ございませんがお願いをいたします。

#### 【大河原町商工会 齋藤清一会長】

大河原商工会会長の齋藤と申します。よろしくお願ひいたします。

今、突然ご指名いただいたわけですけれども、私は建設会社と不動産会社、スポーツクラブをやっておりまして、今年も20人くらいの従業員を新規採用しておりますが、この頃就職率が良くなったからか、新卒者数が少なくなってきたということで、今までは、専門学校、短大、大学卒業生から採用していたのですが、去年あたりから、高校生も採用するようにしています。以前も高校生を採用していましたが、すぐに辞めてしまい、2年ぐらいかけてやっと育てて、何とかできるようになるかなと思うと辞めていきました。これでは良くないなということで、高校生はずっと採用していなかったのですが、この頃の高校生は、大人になったといいますか、その辺は少し辛抱強くなって、我慢する力が出てきたなと思っています。そのようなことで、スポーツクラブでは、スイミングクラブとフィットネスクラブをしているのですが、そちらの方で今、若い人たちが入ってきていますが、いずれにしても銀行でも同じようですが、入ったら3分の1くらいは辞めるものだと思うので採用しているということでございます。ですから、辛抱強く何事もやらなくはいけないということ子どもたちに教えていかなければならない。これが一番大事なことはないかと思ひます。やはり、3年くらい持ちこたえると、何とか一人前くらいにできるようになります。そこまで我慢しきれないようです。

私も大河原商業高校の卒業生ですが、学校がなくなるということで大変寂しい感じはします。今度一緒になれば、生徒数も今よりも少なくなるわけですし、そうすると学科の方も少なくなってくると思ひます。農業や商業などの学校は、どちらかといえば、後継者になるとか、あるいは自立して自分で仕事を始めることが多いと思ひますが、そのようなことを考えると、尚更、辛抱強く頑張るってやるという、これを徹底的に植え付けていくことが大事ではないかと思ひます。ぜひそういう方向で、教育してもらえればと思ひます。

#### 【座長】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。突然のご指名で大変ご迷惑をお掛けしました。

根性のある、我慢強い生徒を育成していただきたいというようなご意見でございました。確かに、3年以内での離職者が多いようです。そのような点も会長様からお話ございました。

それでは、大沼幹事長様お願いいたします。

#### 【大河原商業高校同窓会 大沼俊臣幹事長】

大沼でございます。地元で和風レストランをやらせていただいております。いろいろな素材をいろいろなところから仕入れて、それをコラボして、一つの料理にしていますが、よく我々の料理界では、山形にもありますが、自分でこだわりの野菜を作って、自分で調理しているという方が増えてきていまして、高校の時から「こういう野菜は、こういう料理にすると美味しい」など、そのような訓練をさせて、どういうものをつくれれば売れるのかということを学べるといいと思います。普通の大量に育てる野菜、プラスこだわりの野菜などは、地域性もありますし、それに調理力や認識の問題もあると思います。そのような子どもたちを育てていただければ、地域に根ざした農業と商業の連携という形になると思います。農業の方の野菜やハーブなどいろいろなものを学んでいただいて、それを食に活かしていただけるような学校づくりの方がふさわしいのではないかと思います。以上です。よろしく申し上げます。

#### 【座長】(鈴木教育監兼教育次長)

ありがとうございました。今、食の安全とか日本では非常に敏感になっておりますので、安全・安心な食べ物というものを、高校生の年代から意識して、あるいはみんなに受け入れてもらえるもの。そのようなものを学んでほしいというようなご意見でございました。

それでは、柴田農林の後藤校長先生お願いします。

#### 【柴田農林高校 後藤武徳校長】

柴田農林高校の後藤です。4月にPTAの総会がありまして、5月、先日ですが同窓会の総会も終わり、今週初めには全国の農業関係の校長会もあり、やはりこのように新しい学校ができるということになると、いろいろな方からいろいろなご意見をいただきます。その中で、PTAにしても同窓会にしても本校においては、やはり新しい学校ということにすごく期待をしているという話が、各委員の方からありました。地域に根ざした、あるいは将来100年続く学校というのがどのような学校なのだろうというような興味は多くの方々が持っているというお話でした。全国の農業校長会などでも各県でいろいろな再編統合が行われ、いろいろな事例を紹介していただくのですが、その中でやはり農業教育というのは、何が一番大切かという「命の教育」であるということなんです。他の学校と比べて命がすぐ近くにあって、それを体験することが生徒の成長に大きくつながることが一つあります。ただ、それだけでは産業としては成り立たないので、ではどうす

ればよいかという話になるのですが、ここ何年間か6次産業化という話がありますが、どうしても個人で6次産業をしてしまう傾向にあります。自分で生産して、自分で加工して、自分で販売する。つまり、道の駅での販売以上まではいかず、個人で完結してしまう。しかし、そうではなく、もっとグローバルな視点で、いろいろな専門家の方と話をしながら、それが法人とか企業まで発展するような利点があると思います。そのような意味では、流通、あるいはマーケティングの専門である商業高校とのコラボが6次産業化の新たな視点につながっていくのかなというように期待しております。また、学科数が多くなり、生徒数が増えることは、先ほど斎藤会長さんからあった話とは少し違うのですが、なかなか農業の後継者というのも農業高校に入ったから、すべて後継者につながるような時代ではなくなってきています。それを小規模の学校でやってしまうとその子だけが選べるコースというのがどんどん狭くなってしまいます。それが多くの生徒がいる中で、自分はずっと農業の後継者としてやりたいという選択の幅が広がってくるような気がしますので、それによって本当に自営者教育も様々な角度から将来につながるような教育ができるのではないかと考えております。それから、農業校長会であったのですが、次期の学習指導要領というのは、資料2の産業教育審議会の中にある農業科の分野とは、少し違やかたちになっております。農業の技術や経営に関する部分と、食品の安全と産業に関する部分、環境創造と素材、ヒューマンサービスと4つの分野が今後の世界に対抗できるような農業教育として大切なことだというように捉えられるところがありますので、農業科としては専門性をすごく高めて、商業の様々なマーケティングや流通に関するノウハウを取り入れながらやっていくことが、農業教育の将来につながるのかなというように考えておりますし、グローバル化については、コミュニケーションの英語はどんどん進んでおりますが、専門教育としての英語、本校にも海外協力隊に参加した教員等がおりますので、英語力だけではなく海外の農業事情も踏まえたかたちで取り組めるような生徒を育成したいと考えております。以上です。

**【 座 長 】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。それでは商業教育について、佐藤校長先生お願いします。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

まず第1回目の会議でもお話しましたが、何を目的に商業高校に入学してくるのかということを、生徒や職員たちに聞いています。そうすると大河原商業に行くと、商業関係の高度な資格取得ができることが大きな魅力だと言っています。そのような勉強には生徒も職員も一所懸命に取り組めます。例えば、流通マネジメント科という科がありますが、ここは日本商工会議所主催の販売士検定というのがあります。今はリテールマーケティング検定と名称が変わりましたが、これはいろいろな企業、特に専門店から大きなお店まで様々ありますが、このようなところでこの資格を持っているとかなり仕事の内容などを任せら

れ、責任の度合いなどが違ってきます。このような日商の販売士検定は、受験料は高いのですが、生徒たち1年生3級、2年生2級を目指し、2級を取得すれば上出来と言われております。1級は店長レベルで実務を知らないと受けられない検定ですので、高校生や一般の人であれば2級でいいのです。本校の合格率は、大学生、専門学校、一般のサラリーマンも含めた中で、県平均以上の合格率を上げています。ですから生徒たちは本気になってやっています。

それから情報システム科では、ここも全国商業高等学校協会主催（全商）の検定試験がありますが、1級はもちろん取得します。その上に経済産業省主催のITパスポート、基本情報、さらに上の応用情報という試験がありますが、情報システム科では全国商業高等学校協会主催の検定で1級合格は当たり前ということで、その上のITパスポートを目指しています。これは難しいので合格者は多くはないですが、1年間で16名が合格しており、これは県内で最高です。他の商業高校には負けていません。専門の学科でないと対抗できないと思います。また、基本情報ももちろん合格しています。

それから簿記を中心に行うOA会計科ですが、ここも全国商業高等学校協会主催の簿記1級合格するのは当たり前で、それ以上の日本商工会議所（日商）の検定を目指しています。高校生で日商簿記2級に合格すれば上出来です。日商1級に合格すると税理士試験にも対応できるレベルです。ですからそのようなものを一所懸命受験し、難しいので合格者数は多くはないのですが、つまりそのように大河原商業に行けば、小学科でかなり高度なところまで勉強でき、そこで高度な資格を取得し、それなりの企業に就職して頑張りたいと、もちろんそれを利用した大学進学者もおります。ですからこれからの学校、新しい学校をつくると言っても、今まで取り組んでいる大河原商業の取り組み以下では困る。それ以上、最低でも今以上のものでなければならぬと生徒も職員もそのように思っております。ぜひ、今の取り組みを引き続き行って、さらに高度な資格をもっと目指すような強い専門高校、私は職業高校というより専門高校を目指さなければならぬと思っています。そうしないと新しい時代には適応できません。私も4月に入ってから、数社の企業訪問をしました。ある金融機関の方からは、「商業高校は良いですよ。大学生を採用してもすぐに辞めます。商業高校の生徒は粘り強いです。特に、大河原商業は高度な資格を取得してくるし、粘り強いです。」と。銀行では証券外務員試験という、ご存知のように銀行も投資信託や保険商品などいろいろな商品を扱いますから、入社してから大学生や商業高校の卒業生が同じように研修して、そのような試験を受験させるそうです。「本気になって勉強して合格するのはなぜか商業高校から来た生徒。様々な資格試験で高校時代に鍛えられているからだ。大学生はそれについて行けないとすぐに辞める。」と言っています。だから商業高校生に求人の一部を振替えているということです。ただし、「もちろん大卒も採りたい。ですが、これからは商業高校でも経営幹部として考えたい。」ということも言われています。我々としては、ただ単に就職できる生徒ではなく将来の経営幹部にもなれるような、それを目指すような、いわゆるグレードの高い高校生を育てなければならぬ。そのためにはグレ

ードの高い専門教育をしなければならないということで考えております。高度な資格取得、それから先程もキーワードで出ていましたが、これだけIT化、情報化が進んだ社会で、これからますます進みますが、インターネットを利用したビジネスがどんどん広まってくると思いますから、そのようなことができる知識や力を持った人材育成、それから商品を開発する力です。これが大きいと思います。そのような点では、商業高校に足りない、弱い点は、農業生産物や工業生産物のような具体的なモノを実際につくれないところで、農業生産物の加工、そして売りたいと思ってもモノを生産できないですから、そこを、農業を学んでいる生徒が生産物をつくることに意義があると思います。そうするとマーケティングの力も利用して、販売力、それから新しい開発をどうするかという力も付くと思います。あとはやはり何度も言われているように、グローバルな社会で、日本国内だけでビジネスをやる時代ではなく、中小企業でも海外にどんどん出ていますので、語学力が必要になります。ビジネスの語学力もあれば、それ以外の語学力もあると思いますが、そのようなことも勉強できる学校。それから、さらに様々な情報やデザインのことも勉強できる学校。そのように高度なレベルを勉強できる学校を目指さないと魅力などできないと思います。中学生からそう簡単に振り向いてもらえる学校にはならないと思います。今までのようなただ農業と商業を統合するだけではだめです。中学生に見向きもされないと。やはり魅力ある、さらに高度なものを、様々な最新のものを勉強できる学校でないと私はだめだと思います。そのためには、あとで議論になるとと思いますが、大学なり企業との連携というのも当然必要となってくると。そのようなことを私は考えていますし、大河原商業の生徒、教職員、保護者もそのように考えております。以上です。

**【 座 長 】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。校長先生から熱く語っていただきましたけれども、今以上のさらに高度な教育を施さなければならない。そのような学校、学科にしなければならないということでございました。

その他、ご意見等ございますでしょうか。このような資質能力を持った子どもたちが育つ学科、学校にしてほしいということでご意見ございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。それでは次の新しい学科、農業、商業に続く新たな学科ということで、この点につきまして意見交換を行いたいと思います。

こちらにつきましても第1回の会議でご意見をいただいているのですが、改めまして皆様からいただいたご意見、それから他県の先進事例等を踏まえまして、新しい学科についてのご意見をお伺いしたいと思います。まず、事務局から資料3に基づいてその説明をお願いしたいと思います。

**【事務局】（西城教育企画室教育改革班長）**

それでは、資料3をお手元にご準備をお願いします。

新しい学科についてということで、農業と商業を結びつける新しい学科を検討する際のポイントというものを3点上げさせていただいております。一つ目ですが、農業・商業系学科と一体的に取組める学科、いわゆるつながりの良い学科で、6次産業化を軸とした学科間連携による教育の展開が期待できるような学科、二つ目は、地域振興につながる学科、それから三つ目として、生徒の進路選択の幅が広がる学科、この三つをポイントとして上げさせていただいております。

資料の中ほどは検討材料ということで、キーワードとして「6次産業化」「地域振興」ということを掲げております。

新しい学科の例ということで、資料下の欄で、繰り返しになりますが、第1回会議のご意見ということで、6次産業系学科、ブランド系学科、福祉系学科、デザイン系学科、外国語系学科といったご意見をいただいたところです。

その右側ですが、実際に南部地区で未設置の学科の記載になっております。水産系学科、家庭系学科、情報系学科、理数系学科、音楽系学科、美術系学科、英語系学科、国際関係学科、その他観光に関する学科等といったものがまだ南部地区では未設置の状況であるということになっております。資料3については以上です。

#### 【座長】(鈴木教育監兼教育次長)

ありがとうございました。

資料3の「新しい学科」について、第1回目の会議でいただいたご意見や、仙南地区で未設置の学科があるというような提案がありました。

これからお一人ずつ、この新たな学科につきまして、改めてご意見を頂戴したいと思います。時間の都合上、4分以内でご意見をお述べいただければと思います。

それでは、後藤校長先生の方から反時計回りでお話をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 【柴田農林高校 後藤武徳校長】

農業系の学校にいますと、農業を中心にいろんなものを考えてしまいがちなので、「新しい学科」となると、反対に想像がつかない部分があります。ただ、6次産業化や地域振興で言うと、農業あるいは商業の中で商品開発したものをどのような形で付加価値を付けていくか、あるいは専門高校や職業高校というくくりの中なので、そこから外れたものであると、生徒の就職や活動などに対して支障があるのではないかと考えます。新しい学科には、職業に関するような学科がふさわしいと思うが、そこに新たなくくりを入れると、それがどの部分に入るのかというのは、なかなか難しいことだと思います。ただ、「ブランド」や「デザイン」などで考えれば、「情報系の学科」でもできる範囲であるし、農業では、ITだけではなく、今「IOT」ということもあり、インターネットでモノを動かすような活用の部分もあるので、そうすると工業系の情報技術の要素も入ってくるのかなと考えます。新し

い学科については、2つの母体になる農業と商業の学科の方針がきちんと決まらなないと、その2つをステップアップするような新しい学科という具体的な案が出せない状態に今はあるということでお許し願いたいと思います。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございます。

佐藤校長先生お願いします。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

農業と商業の両方に関係する学科を考えると、先程も申し上げました「商品開発」や「インターネットビジネス」など、関係してくるのは「デザイン」や「情報」だと思います。名称は別として、「情報デザイン」を中心に勉強する学科と、国際関係という少し幅広くなりますが、やはり「語学」も必要だと思います。「農業ビジネス」「商業ビジネス」など、いわゆるビジネスといった場合には、語学でいろいろな展開ができますので、農業や商業の勉強と語学も必要になってきます。

「情報デザイン系の学科」と、英語にこだわらず「外国語系の学科、国際ビジネス学科」の大きく2つの学科を今考えております。以上です。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。

それでは、大沼幹事長様お願いいたします。

**【大河原商業高校同窓会 大沼俊臣幹事長】**

情報がたくさんあり、頭の中がぐるぐる回っていますが、この間テレビで愛媛県の今治市のことが放送されておまして、一人の農協職員が仕掛けた販売所がものすごく盛況で、お年寄りの方が野菜を出荷し、朝6時になると納品が始まるのですが、「一番売れる角のところに私は持って行く」という姿をテレビで見ました。そこでは、農が強い「農強（のうきょう）」というスローガンを掲げており、素晴らしい街だと感心しました。その脇に、早採り野菜を売りにしたレストランがあり、活気のあるこのような街をつくりたいなと思いました。そのためには、年配者が強いですが、それを支える若い人たちが育っていて、農協でもなんでもリーダーシップを取れて、この街にはこういう人がほしいという、今なかなかリーダーシップをとる人がおりませんが、総合的に周りの人たちを活気付けるような人を育ててほしいなと思います。以上です。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。

それでは、菅野同窓会長様お願いいたします。

**【柴田農林高校同窓会 菅野信会長】**

私は教員生活をしました。その時に、この再編統合が出るということは少子高齢化、極端に言えば地域崩壊ですね、これが継続しないことには、この新しい学科も学校も継続しないということになるのですよね。私はこのようなことを言って申し訳ないのですが、田舎で、ここで育っているものですから、今、各委員の方々からいろいろなお話を聞いてそのとおりでと思っています。グローバル社会ですし、資本主義社会は経済力だし、それはよくわかります。今このふるさとを見て、このふるさとが持続するのかという感じを、私は在職時代から少し持っていました。何か機会があったらと思っていたのですが、ちょうど新しい学科のポイントの中に、6次産業化、地域振興という言葉が使われておりますが、そのとおりのことです。この地域振興をどうメイクアップするか。そして、子どもたちが継続的に定着する地域社会の人間育成も私は考えていかなければならないと思っています。ある高等学校の先生方と話したときに、「うちの学校は〇〇大学に何人入った」と、確かにそれが教育者の目標ですからそれはそれでいいのですが、その子どもたちが地域にその学力を持って来る雰囲気、エリアがあるかといふとなかなかなくて、多くの頭脳がこの地域からも宮城県からも他県に流出している状態にあります。この地域が持続的に人間社会を形成し、地域社会が発展できるような様々なファクターができるような学科を模索してもらいたい。第1段階にこの地域の生徒が持続的に育成を、完成することはないと思いますが、完成する学校でなくてもいいからそのようなことを考えていただきたいと私は考えています。具体的には後ほど話したいと思います。

**【座長】(鈴木教育監兼教育次長)**

ありがとうございます。

続きまして、相原PTA会長様よろしくお願いいたします。

**【大河原商業高校PTA 相原正幸会長】**

大河原商業高校の相原です。希望的なお話になるのですが、せっかく農業系と商業系のいいところがありますので、モノをつくっても売る能力がなければその商品というのはヒットしないですし、販売も伸びない。そのような中で、前回の会議の中で出ましたが、デザイン力やインターネットを活用した販売戦略なりが必要なのかと思います。モノをつくるノウハウがない商業系では商品開発する力を、逆に農業系では販売する力があるかと思っています。私は農協に勤めているのですが、金融共済の方なので農業に携わる部門ではないのですが、昔はつくれば売れた時代だったのですが、今は売れるものをとにかくつくらなければならないし、その動機付けにはやはり宣伝方法なり、語学力を学んで国内だけではなく、海外にもシェアを広げていけるような販売戦略などは、商業系の考え方になる

のですが、そのような良いとこ取りをした中で、将来その販売戦略ができる地域の担い手になる生徒を育成できるような学科ができれば、素晴らしい高校になるのかなと思っています。良いとこ取りでブランド力を付けることができ、美術系ができて、語学ができて、インターネットができてと、何も言うことがないのではというかたちになるのですが、それには良い商品を農業系の生徒がつくり、商業系の生徒がどのような戦略で売っていくかを考えて、この新しい学科の方でそれを拡大していくような理想の学科ができればいいなということ我希望として述べさせていただきます。以上でございます。

**【座長】(鈴木教育監兼教育次長)**

ありがとうございます。

それでは、我妻 PTA 会長様よろしく願いいたします。

**【柴田農林高校 P T A 我妻亨会長】**

今年から会長を務めさせていただきます我妻と申します。初めての会議でございます。まずは、このプロジェクトが成功した、成功したというか私はすごくチャンスだと思えます。といいますのは今の若者、若者という用語弊がありますが、本当に希望を持って世の中で生きているのかと思うと、そうではないなと思えます。私も経営者の端くれとしてどんな人でも能力はあると思えます。ただそれを活かさないだけの話で、そのためにこの学校がどういう目的を持ってこの学校を統合して、新たな学校にするのかというしっかりとした、社会貢献を目指すための、日本経済を立て直すためのその目的は何かということをしかりとしたところをまず決めて、そこから学科というのはできるのではないかと自分なりに思っています。さらに、先生方が大変かなというように思えます。確かにいろいろな専門分野で学んでこられたスペシャリストの先生方が指導されると思えますけれども、それだけでは少し無理があるのかと思えます。私も柴田農林を卒業してずっと一つの仕事で頑張っているところですが、やはり経営学という部分ではすごく苦労しました。良い製品をつくっても、良い腕を持ってそれをどのように活かすか、どうやって仕事に結びつけるか、ここが一番の問題なのかなと思えます。なぜ農業の後継者がだんだん少なくなっているのかと思えば、作っても売れない、安くてどうしようもないといったような、これは様々な制度的な部分もありますが、すごくチャンスなことだと思いますので、いろいろと知恵を絞って、本当に地域を活性化させるような学校づくりをしていければいいのかなと思えます。本当に魅力的な会議だと思いますので、微力ではありますが、ぜひ協力していきたいと思えます。以上でございます。

**【座長】(鈴木教育監兼教育次長)**

ありがとうございました。

それでは、品川校長先生よろしく願いいたします。

**【金ヶ瀬中学校 品川信一校長】**

新しい学科ということで、なかなか難しいテーマだと思って話を伺っておりました。柴田農林高等学校さん、あるいは大河原商業高等学校さんはやはり伝統がありますし、それぞれの分野で実績を積み重ねてきたということもあると思います。それで中学校の現場からの話として、それぞれの強みを活かしたような学科をぜひご検討していただければと思います。だいぶ前の話なのですが、教え子が高校進学をする際に、われわれはナンバースクールに入るのかと思っていても優秀な子だったのですが、自分は早い段階からバイオ技術について学びたいということで農業高校への進学を決めて、そこでバイオ技術について学び、大学に進学したという経緯があるのですが、先程の話の中で、例えば大河原商業高校さんですと、様々な高度な資格取得ができると、あるいは柴田農林高校さんですと、たぶんいろいろなバイオ技術や生産に関しての高いノウハウを持っていると思うんですね。非常に子どもたちの要望というのは広がっておりますし、時代の要請ということもあるかと思うので、例えば、専門的に深く学びたいという子ども、あるいは生産から販売まで広く学びたいという子どもなど、そのような子どもたちの要望に応えるような学科があるといいと思っております。第1回目の会議のときにいろいろな要望やご意見が出されており、新しくはないのですが、6次産業的な学科ですとか、子どもたちが自分の進路に合わせて選択できるような総合的な学科があれば、中学校としては子どもたちの将来を見据えながら、君の将来の希望からするとこういう方向性の高校がいいのではというアドバイスができるかなと思います。以上です。

**【座長】(鈴木教育監兼教育次長)**

ありがとうございました。

それでは、齋教育長様よろしく願いいたします。

**【大河原町教育委員会 齋教育長】**

こんにちは。私はまず、何のために新しい学校をつくるのかという目標を明確にさせることが大事だというように思います。今、皆さん方のお話を聞きますと柴田農林同窓会長の菅野先生のお話は、地域に貢献できる人間をつくるというように私は理解しました。我妻さんもおっしゃっておいりましたけれども、やはり地域の人材が流出しては困る。地域をますます盛んにしてくれる人材をつくるということがまず大事だろうと思います。二つ目は地域だけではなく、日本全体に貢献できる魅力ある生徒をつくる。言葉が少し足りないかもしれませんが、そのようなことが私としては、大事なかなと思って聞いておりました。大河原商業の佐藤校長先生のお話で、やはり何と言っても高度な資格を取得させることが、子どもの将来のためにとっても重要なのだとお聞きまして、これはとても大事なこと

だと思っておりました。あわせて、大沼さんのお話を聞きますと、こだわりの野菜を作る、つまり売れる野菜を作らなければ何にもならないのではないかとお話をしておりましたが、やはり柴田農林は品物をつくるという特技を持っておりますので、かつて仙台吉野という桜の苗木を柴田農林でつくっておりましたが、そのように柴田農林でなければできないという何か一流の品質を生む学科といたしますか、バイオテクノロジーを使いまして、そのようなものをつくる学科、柴田農林でなければ、この新しい学校でなければできないような品物やこだわり野菜といたしますか、全国どこにいてもないような品物をつくる、そのようなものが必要だろうと思います。「ポパイのほうれん草」と言いますか、マンガの世界なのですが、あのほうれん草を食べれば瞬間的に力が入る、そのようなものをできないことはないだろうと思います。そのためには、つくっただけではだめでありまして、しっかりと情報を発信していき、そのようなものも同時に研究していく必要があると思います。販売方法のようなこともしっかりと研究できる学科も必要になってくるのかなと思っております。以上でございます。

**【座長】(鈴木教育監兼教育次長)**

ありがとうございました。

それでは、伊勢町長様お願いします。

**【大河原町 伊勢町長】**

前はブランド学科ということを上申したのですが、今日、皆さんのお話を聞いてさらにその考えを強めたと思っております、例えば第1回会議の意見として、六つの学科が書いてありますが、このうち福祉系学科を除いては、ほぼ皆さんが共通するものがあるというように思っております。その中で6次産業系学科には、「ブランド」ということを前提に考えますと、当然6次産業の知識が必要ですし、今、齋教育長がおっしゃったとおり、売れるような素晴らしいほうれん草をつくる技術も当然必要ですし、また商品開発も、それから販売のためのIT戦略も当然必要だということで、そのようないろいろな学科の中に、科目をいろいろ設定できると思います。その中で、自分がどの方向を目指すかによって、観光をやりたいと語学が強くなりたいと思えば、語学を中心に勉強すればいいと思います。そのためには単位制の学校にしておけば、私はいいと思います。そのようなことで生徒の個々のニーズに合わせて対応できるような学科をつくっていただきたいと思っております、ブランド系学科の中に、当然デザインも含むものと私は考えております。少しご紹介しますと岐阜県のブランド戦略として「織部ブランド」というものがありまして、これは繊維の町で大手商社にいいように利益を吸収されていたということで、何とか自分たちでデザイン力を上げて、世界に打って出るということで、ニューヨークのメトロポリタン美術館など、いろいろな美術館で展示会を行うなど、デザイン力を見せようということとでかなり成功した事例があります。そのような意味でブランド系学科にすれば、語学の

勉強をするし、デザインも勉強する、それからITも情報もあらゆることを勉強できるようになれば、全国に先駆けて、しかも佐藤校長先生がおっしゃった高度な専門高校にもできるのではないかと考えております。また、ブランド学科のブランドですが、いわゆるブランド品の開発ではなくて、私は地域ブランドということをお願いしたいのです。菅野先生がおっしゃったとおり、地域の振興ということを考えますと、地域力を向上するための知識を勉強するということになり、地域ブランドというのはそもそも、地域の信頼を高めるというそのような価値がありますので、そのような意味で、地域振興にも結びつくような学科ではないかと思っております。改めてブランド学科を提唱したいと思っております。以上でございます。

**【座長】(鈴木教育監兼教育次長)**

ありがとうございました。

佐藤教頭先生お願いします。

**【大河原中学校 佐藤徳雄教頭】**

初めて参加させていただきます。よろしく申し上げます。いろいろご意見をお伺いした中で、仙南地域にない学科ということも出ていますが、隣の村田町には村田高校が総合学科ということでございまして、あそこは以前、普通科と自動車科があり、その中で、工業系の自動車科があったりしましたが、現在はそのようなことをコース制で力を入れていたり、福祉系のコースを取り入れたりしていると認識しておりました。新しい学校を再編するに当たって、一体何を子どもたちが勉強したいと思うのだろうと考えたときに、今二つの学校の大きな力があると思うのです。大河原商業さんは資格取得に力を入れていただき、卒業生もたくさん資格を取ったと報告に来てくれます。それから、柴田農林さんの方では新しい農業関係のバイオも含めての新しい技術を子どもたちに伝えていただき、面白いと言っています。その二つの学校が一緒になったときに、その大きな力が発揮できる学科がいいのかなと思っているのが一つ。それから、村田高校の話にまた戻しますが、総合学科でやっている学校の隣につくるということで、その辺でどのようにしていくのかということが難しいのかと思って聞いておりました。あとは子どもの立場からすると後継者として入ってくる子どももいるでしょうし、実際のところ今の中学生が本当に目的意識を持って高校を選択しているかということ、中学校の教員が言ってはダメなのかもしれませんが、なかなかそこまで意識付けできないまま高校に進学させているところもございまして。高校に入ってから、将来こんな風になりたいと思っている生徒もたくさんいますので、そのような可能性を広げられる学科であってほしいなというところ期待しているところです。卒業後に自営で、その農業を経営していく、あるいは6次産業化して自分で経営していくというような子どももいれば、人に雇われて、あるいは農業も今一人でやるというよりは法人化したりする方向に進んでいますので、その中で発揮できる力が付けさせればいいのか

など思って聞いておりました。取りとめのない話で申し訳ありません。あと高校卒業した後に、どのような進路につながるにしても、どんどん技術等変わっていくわけで、高校時代に新しい、最新のものを身につけたその後、卒業した後も自分でいろいろなものを吸収できる力をつけていけるような、IT関係のことも含むと思うのですが、新しい技術、情報などどんどん吸収して、自分のものにしていけるような力をつけられるような学校、学科、科目になるのかもしれませんが、そのようなものを設定していただければと思っております。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。それでは郡PTA連合会の藤原会長様お願いします。

**【柴田郡父母教師会連合会 藤原義信会長】**

藤原と申します。佐藤徳雄先生は中学校のときの数学の先生で、私の中学校時代もたぶん見ていると思います。魅力ある学校と言われますと私は中学校のとき勉強しなかったので高校に進学するときに、家が専業農家で菊の花を栽培していたのですが、農業の専門の学校、やりたいことができる学校に行きたいと思って、結局学力が足りなくて行けないということががっかりしたところがありました。専門分野で自分がやりたいというところに入れるような学校が一番魅力ある学校ではないかなと思います。必ずしも通信簿が3点いくら以上とか、そういうのがなくてはならないのではなくて、やりたい目標があって、こういう方向性を持っていますという子どもたちが入れるような内容の学校が一番魅力あるのではないかと思います。商業系であれば、やりたいことが商売をしたいとかそのような方向性が見えてくるのだらうと思うのですが、新しい学科というと難しいかもしれませんが、農業をしている子どもが農業専門の学科に行ったり、頭のいい人たちは、おそらくわざわざ農業をするという感じはこのご時世いいような感じがします。ですから、新しい学科を考えますと農業と商業もコミュニケーション能力をつけて、お互いが情報を取り合って地域、世界に広げられるような情報を持ったような人間を育てられるような学科が一番いいのかなと感じて聞いていました。以上です。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。

それでは、斎藤会長様お願いします。

**【大河原町商工会 斎藤清一会長】**

今回のような学校がいっぱいできているので、そのような学校の良いところを取って、悪いところを外して、そしてまた地域にあった学科も設けなければならない。時代に合った学科も設けなければならない。そのようなことを重点的に考えていけば必ずと良い学科

も生まれてくるのではないかと思います。よろしくお願いします。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。

それでは、鈴木所長様お願いします。

**【宮城県大河原教育事務所 鈴木一史所長】**

皆さんの様々なお話をお聞かせいただき、本当にそれぞれのご意見がもつともだとお話をお聞きしておりました。私自身が感じておりますのは、先程からいろいろ話になっておりますが、それぞれの今の学校さんの強みを活かすというのはもちろん、これは大前提だと思いますし、それから今の子どもたちの現状を考えたときに、コミュニケーションが大切だということは言われますが、何となく簡単に語学が云々だとかに私は走りすぎなのではないかということがあって、どんな仕事だろうがやはりいろいろな人とどう関わっていくかという力を付けていくことが大事なのではないかと思うのです。大きくコミュニケーションということをつえながら、その辺りの力を子どもたちが身につけられる視点というのも大事にしながら学科を考えていくのが大事だなというように今思っているところで。以上です。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。全員の皆様からご意見を今いただいたところですけども、その他に何かご意見ございましたらお願いしたいと思います。

**【大河原町 伊勢町長】**

時間に追われて説明を省かせたのですが、織部ブランドと言いますのは、古田織部という武将がおりました。信長、秀吉、家康三人に仕えた武将です。梶原知事の時代に、織部ブランドをつくらうということで、岐阜県の武将だったものですから織部ブランドということでした。

**【座長】（鈴木教育監兼教育次長）**

ありがとうございました。その他、補足等ございませんでしょうか。何かありましたらお願いします。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

いろいろなご意見を伺いましたけれども、学科と教育方法は必ずしもイコールではないのです。ですから、今までいろいろな意見を聞いて、地域への貢献だとか、人との関わり方とかそのようなことが大事ではないかなど、もちろん大事だと思いますが、例えば、コ

コミュニケーション能力を育成することが大事ということは、どの学科でも同じことが言えると思います。どのような学科をつくろうとも、それは教育方法なのです。人との関わり方を豊かにしていく、これも既にそれぞれの高校でやっていますし、普通高校でも、農業高校でも、商業高校、工業高校、水産高校どこでもやっています。それは教育方法の問題なのです。新しい学科といった場合は、既に商業と農業の学科については、県は引き継ぐことは前提としているわけですから、それぞれの深い商業系の学科、農業系の学科でさらに追求していけばいいと思うのです。例えば、6次産業科も出てきましたが、これも今だって大河原商業と柴田農林で提携して何かやろうと思えばできます。ただ、いろいろな事情があつてまだできない状態ですが、6次産業化に向けた取り組みをやろうと思えばできます。それは農業系、商業系は引き継いで行けば、あとは教育方法のやり方でできるわけです。例えば、JAさんや農業大学校さんと連携するとか、あるいは宮城大学や様々な大学と連携してできるのです。ただ、新しい学科となると、深い専門性は引き継いだ学科であるようにして、今ない学科とか、少し弱いなと思うところ、例えば情報とかデザインだとか、あとは町長さんもおっしやっていた何か強力なブランドのような学科だとか、そのようなものが私は必要ではないかなと思います。個人で商売云々とかありましたが、今個人でやるというのはもう難しいですね。インターネットを使って数人、2～3人いればネットを使ってビジネスはできますよね。南三陸町でも漁業が津波で壊滅しましたがけれど、たくましい漁業者は数人で協力し、インターネットを使って全国にカキやホヤ、アワビなどをセットで3千円とかで販売して、ばんばん売れている。ですから、新しい学科というのは今までにない学科、もっとこういう分野を強くするような学科という考え方でいかないとだめではないか。教育方法というのは、どの学科でも工夫してやらなければいけないと思います。そこをきちんと整理していかないといけないと思います。以上です。

#### 【 座 長 】（鈴木教育監兼教育次長）

ありがとうございました。今回は設置したい学科ということでお話をいただいたのですが、今の段階でその具体的な手法、方法、あるいは育成すべき資質能力そのようなものをもっとはっきりさせないと、より明確なものが出てこないというところもありますし、このような議論を踏まえないとそこまで到達しないということもあると思います。ですから、今佐藤校長先生からありましたけれども、コミュニケーション能力の育成というのは資質能力の一つでありまして、ねらいとするその教育を通してどのような力を育てるかということに通じるものでございます。ですから、手法とねらいもこれから検討していかなければならない本当に重要なことだと思っています。

まだまだご意見があると思いますが、よろしいでしょうか。

そろそろ予定の時間となりましたけれども、貴重な意見をたくさんいただきました。持ち帰らせていただきまして、両校とそれから教育庁の方で検討をさせていただきたいと思っております。なお、今回の第3回目のこの会議でございますけれども、学校視察を行いたいと

思っております。既に統廃合されて新たな高校として出発した学校を視察しまして、そして第4回目の会議で、これまでいただいたご意見等を踏まえて、中間案という形でお示していきたいと考えているところでございます。今後とも、このような予定でございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それではその他、ございませんでしょうか。

なければ以上で、この協議の部を終了させていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは進行を事務局へお返しします。

#### **4 閉会**

##### **【 司 会 】**

ありがとうございました。本日も貴重なご意見大変ありがとうございました。

次回の第3回目の会議でございますが、既に教育監の方からも御案内いたしましたけれども、山形県立村山産業高等学校の視察でございます。日程が6月13日月曜日で大河原合同庁舎を午後1時に出発する予定でございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、既に出欠の御回答をいただいておりますが、万一急に出席できなくなった場合につきましては、ご連絡を頂戴できればと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それでは以上を持ちまして、第2回大河原地域における高校のあり方検討会議を終了いたします。本日はありがとうございました。